

## 生産担う家族農業に支援を一紙議員が酪農調査

紙智子参議院議員は11日から13日までの3日間、道東の別海町、厚岸町で、農協、酪農家、畜産農家、バイオマス発電施設、TMRセンター（牛の飼料供給施設）などを訪問し、懇談・視察・調査を行いました。森つねと道国政相談室長も参加しました。

生乳の生産量が落ち込み、輸入飼料が高騰して酪農家の廃業が相次いでいます。日豪EPAは道内の酪農・畜産経営に深刻な影響を与え、TPPはそれに追い打ちをかけます。

紙議員らは、配合飼料（輸入穀物）を使わず、放牧で草を食わせて搾乳している「マイペース酪農」の森高牧場、石沢牧場を訪問。家族経営を中心とした展望の持てる酪農経営への支援が、日本の食糧確保と農業発展の道と実感しました。

このほか、大規模酪農、肉牛飼育の牧場を視察しました。中村忠士別海町議、谷口弘厚岸町議、石沢由紀子厚岸町議らが同行しました。

### 別海町、厚岸町で農家、JAを訪問



森高牧場で乳牛を視察する（左から）紙議員と森氏＝11日、別海町

## 北海道経済つぶすTPP、反対ひろげよう

### JA幹部らを励ます

別海町の道東あさひ農協では、原井松純（まつよし）組合長ら幹部9人と懇談。組合長から「エサ代が高騰し、酪農全体が疲弊している」「家族経営の労働負担が限界にきている。労働時間の短縮のため、搾乳ロボットの導入を検討している」との説明がありました。

厚岸町の釧路太田農協では、河村信幸組合長ら幹部5人と懇談しました。「EPA、TPPで生産現場は暗い気持ちです。農家は政治に振りまわされています」と話す河村組合長。

紙議員は「日豪EPAは、まだ国会での承認が残っています。反対の旗を降ろせば北海道の酪農・北海道経済は重大な危機を招きます。TPP参加反対、EPA反対で一緒に頑張らしましょう」と激励しました。



釧路太田農協で懇談する紙議員（正面中央）と森氏（その右）ら＝13日、厚岸町

### バイオガス発電施設を視察

別海町の人口は1万6千人、乳牛は11万頭、肉牛は5千頭。ふん尿処理も大変です。

紙議員らが訪れた別海町資源循環センターは、1千頭規模のふん尿を受け入れて、バイオガス発電を行う町営の施設です。ふん尿をメタン発酵させ、消化液とバイオガスにして貯留します。消化液は農家の土地に散布し、バイオガスは電気・熱エネルギーに変換して施設内で利用。一部は北海道電力に売電しています。

別海町ではこの他に、三井造船が経営主体となって設立された別海町バイオマス発電株式会社が、5千頭規模の大きなバイオガス発電施設を建設中です。

### マイペース酪農家らと交流

紙議員らは12日、「マイペース酪農」を実践している別海町、厚岸町、標茶町の酪農家や獣医らと懇談しました。「利益の落ち込みに対して、生産量を増やそうと規模拡大で対応すると、借金を増やす悪循環になる」と大規模化に警鐘をならす発言が相次ぎました。「大型バイオガス発電は土壌の炭素を奪うので良くない」「TPPは絶対反対。自国で食べ物が作れない国は亡びる」などの意見が次々と言われました。

紙議員は、出された意見を国会質問に生かす、と語りました。